夕刊 磐城新聞
八月十六日發行
發行所 磐城新聞社
東京振替一〇六八五五番
(日曜祭日翌日休刊)

愚庵の臨終 (四)

岡田生

愚庵はぼかんとして聞いてゐた。師は再び同じ言葉を繰り返した。だが愚庵は相變らずぼかんとして居た。そして師がなぜ此の孟子の言葉など二度までもくりかへすのか解しかねて居た。と師は三度びこの同じ言葉を繰り返すと共に馬鹿と一喝して愚庵を椽から突き落してしまつた。はつと其の瞬間、何者かを得たのだつた……

その先師滴水和尚も先年示寂した、それから引き續いて兄弟子の峨山和尚も逝に三四年前に……いよいよ今後は自分の番か……

元策はいつもの朝のやうに食前の藥をすすめた。だが師は口を結んで頭を横にした。で、今度は牛乳を持つて來た。だがこの數日來の唯一の食餌で、昨日まで六合も飮んでゐた牛乳をも堅く拒んだ。そして瞑目したまゝで何かまた微かに口吟んだ。元策はもはや無理にすすめやうともしないで血の氣を失つた師の唇のかすかに動くのをさびしく見守つた。

いよいよ愚庵の臨終が近づいたと聞き知つて、主治醫の村田醫師、菅原醫師を初めとして、朋友知己二十名ほどが後から後から汽車で見舞に來た。

愚庵は其等の人達が見ねる毎にいちいち其等の人々の手ヶ取つて丁寧に訣別の言葉を述べた。皆んな目を被つて愚庵の褥の周圍に默した。そのうちに羽根布團の端に顏を埋めて、おい〱と聲を立てて泣き出した者があつた。それは此の羽根布團の贈り主だつた繩手の小川亭のおてい媼さんであつた。

媼さんはいつか酒間の折に、未だ天田五郎だつた(てんだ)から、若し自分が出家するやうなことがあれば親代りになつて呉れと冗談まじりに賴まれたことがあつたのだ。それが眞實となつて、ふさ〱した黑髮を七三に分けた洋服姿の天田五郎の後に隨いて、林丘寺の得度式に行つたのだ。そして其の式後、丸坊主になつた(ぐあん)が頭を撫て廻はしてほろりと涙を流したのを見て自分もたまらなくなつて一緒に聲を揚げて共泣きしたのだ。その十七年目の薙染の日がいままざ〱と目のさきに甦つて來て、媼さんは自分の最後の場合には和尚の導きに賴り度い、とよく〱依賴しておいたのにいまはそれが全く反古になつたばかりか、逆さまごとになつてしまつたのに、諦めやうとしても諦め切れずに居るのだ。

雪國吟

上毛沼田町 島田忠夫

○雪坂をバスのろのろしこの町の冬に來慣れて安き思ひあり

○今しがた照りゐたる月をおしつゝむ雲のゆゝしく雪ふらむとす

○ゐかつきの光うごきてなほ暗し雪降るらしき庭の靜もり

○屋根に積む雪ちらしつゝ高處なす町を山かせは吹きとほりたり

○ふぶく道なやみ來りて山溪に雪降りこむをしばし見てをり

○洞なせる巖かげの土ほこりたち短き笹生さやぎてやます

○赤城原いくらも見ねずくらくらとやゝ近き嶺も雪にかくらふ

つばめ

スイスイ
つばめは
親つばめ
チイチク
つばめは
子のつばめ
夕焼

小やけの
軒端へ
エサを
探して
きちや止め

夜汽車

ガツタン ゴツトン
夜汽車です
どの子が宵深て
ゆくのやら

燈がゆらゆら
ゆれてます
ガツタン ゴツトン
夜汽車です
ポツチリ灯
赤ライト
汽笛が發つて
淋しいな

8月17日

△源頼朝擧兵(治承四) △川越駐支大使情勢視察に北上(昭和一一) △閣議で臨時議會召集期日九月三日と決定(同一二)

その日〱

屋根の上の異國の旗や雲の峰 汀女

聞近藤先生講演 國体本義

抹要 小野務平

討研思想夙抽群
千舌千文期拂氛
論破縦横無假借
明徴國體有斯君

講談 隠密小天狗 (100)

中川雨之氏作 近藤鐵氏畵

血筋の證

三郎兵衛は、そつと元の座へ戻つて、何氣無い風を裝つたが、しかし心の中は暴風のやうに亂れ騷いで、只だ茫然たるばかりであつた。

其處へ小夜美が這入つて來た。それとは夢にも知らない彼女、三郎兵衛の様子に、不審を抱く筈は無い。

『ほんとにお待ち遠さまでお氣の毒でございます』

といふ。

それだけでさへ、三郎兵衛は、もうどぎまぎして舞ひ。

『いや〱。なあに』

と、我ながら、譯の分らぬ返事をしてしまつた。

が、それもその筈、つい今の先、で、狐よ狸よと見み侮つてゐた女が、若し現在の娘だとしてみれば、これは誰だつて、平氣で居といつたつて、居られる筈は無い。

そこで彼は、てれ隱しに急いで茶碗を取り上げたが、茶碗を持つ手先が、微かに震へて、茶の味なぞ判るはずは無い。

總身の注意を、目の前に坐つてゐる小夜美の姿に打込んで、茶碗の湯氣を透して、上目遣ひに、ちつと。何かを求めてゐたが。

『あゝ、娘だ!やつぱり我子に違ひない』

と、心で叫んだ。

面長で色白の横顔、髮の生え際目元の具合、それにすんなりとした撫で肩まで見れば見るほど爭はれぬ血筋の證、母親とめに、生寫しの處がある。今までは、何の氣も無く看過して居た路傍の草花の、薬にも莖にも、心を惹かれる風情を發見したのと同じこと。

『お鶴』

と、二十年の長い歲月忘れかねた幼な名が、思はず咽喉から滑り出やうとしたやつを、ちつと嚙みしめて素知らぬ振をする。その苦しさと云つたら無い。體中の血が熱して、顏にはヂリヂリと油汗が湧く。

三郎兵衛、茶碗を離すと慌てゝ汗を拭いた。

がそのまゝ默りこくつて居のは變なもの、默つてゐては、彼の心が濟まなかつた。さうかと云つて手繰り出す言葉の糸口が容易に見つからない。あゝ言つてみようか、かうも言はうか、と思案の揚句、やつとのことで。

『拙者も、ちやうど御身ほどの娘があつて、當時は國元で暮して居るが、いやもう親は痴けたもので幾歲になつても、子供のやうに思はれて、頓と忘れた暇とてはないが、して、御身の父御は?』

と、わざと、訊いてみたるつもりで言つたのだが。

嘘も方便、相手の心を探さうした氣持も小夜美に判る筈は無論無い。おほかた御作を待つて居る間の、退屈紛れに、話しをかけられのだと思つたが、父の事を訊かれたので、思はず知らず心を動かされた。

『わたしは、お父様といふものを知らぬ不倖者。お父様を持つてゐる世間の人がお羨ましう御座います』

『とは、またどういふ譯で……』

『はい、二歲の時に母さまに死別れ、間もなく人に貰はれて、ズツト他人の手で育てられて參りました。わたしのお父様は、東北とやらの立派なお武家様と聞きましたが、只、た武家といふだけで何處の何といふお方か、お名前すら知らぬ位、この世に生きておゐで遊ばすか、それとももう彼の世の人になられたか、それさへ知らぬ悲しい身の上日陰に生れた不倖な者でございます』

空冷式 健康陶枕
笑はれる程よく眠れる、疲勞倦怠を快復し精力記憶力を増進する實用新案の健康陶枕
效能
腦を酷使する人、腦神經衰弱の人は藥よりも この空冷式健康陶枕を……
高血壓症 腦溢血症 不眠症 のぼせ症 耳鳴、頭痛症の方に特に卓効あり
特約店 入江陶器店 平市五丁目 電話五八二番

開店披露
一、公債、株式、債券現物賣買
株式は一株より 債券は一枚より
迅速簡易ニ御便宜御取扱致マス
㊞ 株式店
福島縣平市田町二十五番地 電話三六五番

産科 婦人科 花柳病科
午前宅診 午後往診 入院應需
井坂醫院
平市田町(元合津醫院跡) 電話五五九番

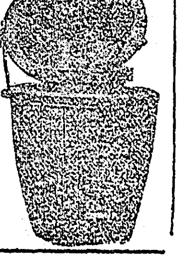
夜間診療
胃腸 性病
内科 胃腸病科 花柳病科 性病科 皮膚科 專門
松村胃腸性病科醫院
(平市南町電一〇七番)
(見習看護婦募集)

吸入用酸素
度量衡 モノサシ マス ハカリ
計量器 體溫器 寒暖計
開内藥局 電話四〇番

高久病院
内科 小兒科 外科 花柳病科 耳鼻咽喉科
醫學士 高久忠 新潟醫學士 赤羽清 藥劑士 佐竹菊雄
(看護婦至急募集)
平市田町 (電話五三一番)

故障の起らぬ 原口のラヂオ
ラジオで聴こう。時局ニース
ラヂオは是非── 專門店……へ
原口無線電機株式會社代理店
古山電氣商會
平市二丁目(警察署通り) 電話(呼出)166

耳鼻科 咽喉科 專門
大和田醫院
平市南町一六番地 電一七〇番
(入院隨意 病室完備)

實用新案 第一八七四三〇號 意匠登錄 第六六一六七號 石山式
石綿ムシカマド
こんな經濟的な『かまど』は他にありません
安價な燃料で濟み、保溫力が強く堅牢で火の元絶對安全!、御使用に御便利な!石綿製のムシカマド、近代生活のお台所に是非、おすゝめ致したい新製品で御座います。

和洋銅物金物問屋 ㊅ 釜屋商店 平市五丁目

第一線の 慰問品ニハ
見不知羊羹と潮の華
泉屋菓子店 平市五丁目 電話六六八

男女學生夏服大特賣
㊂高 高嶋屋の洋服
廣背新柄 レンコート
既製品並ニ注文
高島屋 平市二丁目 電話三八六番

和洋 建具 家具 テーブル 椅子
其他裝飾品一般……
御用命は迅速に御努め致します。
諸官衙 各學校 御用達
製作販賣
㊁片 片寄製作店
平市五丁目四 片寄小彌太 電話四八四番
十五、六歳見習職工募集

生花教授
池ノ坊 生花を懇切丁寧に御教授いたします、お遊びがてら御出で下さい。
須藤まつの
平市四丁目和泉屋旅館

女の有權者も交る 多彩な所得調査委員選擧
愈よ五十餘日に迫る

女子參政の露拂ひを承つて若干の女性有權者も交る平税務署管內第三種所得調査委員選擧は愈よ十月十日前後に於て執行されるので税務署では目下有權者に就て詳細な調査を進めて居る

本年度の確定納税者は營業收益税一、五四八名所得税二、〇八三名合計三、八三一名で一人にして兩税を納むるものがあり之を一名と計算した實際納税者三、二三一名中選擧權の條件たる法定期間內の申告者は收益税五九四名、所得税一、六八四名合計二、二七八名であるが右の內には兩税納付の重複がある外老幼廢疾の控除關係で資格に達せぬものや、未成年、有夫の婦等の無能力者或は滯納處分を受けてから一年を經過せぬもの、破産復權せざるもの及び刑事懲戒等の欠格條項該當者を除外するので實際の有權者數は前記より遙かに少いわけで結局千數百名により行はるるものと豫想される因に此程滿期となつた調査委員は

野崎滿藏、吉村安次郎、岡田千藏、多田井笑次郎、鈴木喜太郎、大平睦四郎、安島久の諸氏であるが今回は免税點の引下げによる新規納税者の增加などもあり、果してどの邊が登場するか、その顏ぶれに就ては早くも一部の興味をひいてゐる

救濟費の一端にと 前線から金一封
情の勇士吉田格治曹長

先頃戰地より入山分會に爲替が屆られ不審がつてゐたところ程經て別記のやうな軍事郵便が着いたそれは第一線に活躍中の元同社人事係助手吉田格治君が弔慰の一部分を割いて銃後救濟費の一端にもと云つて送金されたものであるといふ事が判つた。分會では早速此の尊い金を本人の意志に添ふべく適當な方法を講ずることになつた

小兵も御陰様で元氣です目下〇〇の警備の任に當つて居りますが此所は相當に大きな街で附近には大なる敵影も砲聲は勿論銃聲すら聞く事が出來ません、雨の降る日は涼しく過ぎ〻彼ですが天氣になると非常に暑くなり、氣候も內地とは大變異つて居ります、飲料水の頗る惡い所で泥田の水の様なのをわかして用ゐて居ります(略)然し銃後の皆々様の御後援を思ひ又護國の神となられた勇士の事を思ふと我々は幸福です、幸ひに一度も病氣にもかゝらず老兵と雖もなかなか元氣なるもので壯者をしのぐものです。

五月三十一日付で〇兵曹長に進級して六月末初めて曹長の給料をもらひましたので誠に僅少ですが別送爲替にて金一封を御送附いたしましたから、我分會員にて今度の戰傷死された方々の救濟費の一端にも入れて戴けば滿足と思ひます、何卒御配慮煩はし度く御願申上げます

〇〇〇〇〇〇

健康保險醫指定 植田町本町幸恒足氏は此程本縣健康保險醫に、又內郷村宮字町田飯沼ちいさんは同健康保險産婆に夫々指定された

滿洲移民の視察員決る
本郡から二校長

滿洲移民大量送出計畫の趣旨を一層强調せんとするか學校長らの現地視察員十名

中地方から內郷堀一郎、大浦根本喜代八兩校長が加はつた

一行は來月中旬新潟港を出帆渡滿、朝鮮廻りで歸る豫定

議事堂移轉
その跡へ紹介所

平市土木委員會は十九日午後一時から開き左記諸件を附議、國營平職業紹介所は最初市役所正門脇に建設する筈であつたが方針を變更、現在の市會議事堂を市役所構內東方に移轉その跡へ紹介所を新設するもの

△昭和十三年度施行排水路道路工事箇所關係地主と協議會の件

△愛谷堰普通水利組合との契約

△市會議事堂移轉工事施行

其頃の酒井國手
遊廓問題の論戰を偲ぶ
○△生

明治四十年五月十六日の平町が遊廓設置に關する伊坂員正町長の諮問案を可決したに端を發し、一部有志は風致上斷じて見逃すべきではない――と文書に言論に猛然として反對の狼火を揚げた。中にも時の旬刊『いはき』紙上を賑はした北郷保守・酒井國三郎兩醫師が四つに組んでの論戰は職業柄種々なる統計などを引つ張り出して堂々の論陣を張り夫々賛否二派の識者をうならせたものだ。次は當時の少壯酒井國手が同年六月二十五日發行『いはき』第二號に載せた『平町に公娼設置の必要を論ず』なる一文の冒頭である。爾來三十有餘年、亡き人を偲ぶ語り草にもと之を抄錄する

○日露の戰捷は端なくも我が日本帝國をして世界最大强國の伍伴に列せしめ國民の健康をして將來益々强剛を期待すること頗る凱切なり、然り國家の盛衰は國民の健否に關し國民の健否は衛生の消長に拘るものなれば斯道の責任重且つ大なりと謂うべし、即ち現實の社會を觀し來らば感歎して如何衛生の思想は未だ充分國民の間に普及せず、衛生に關する行政制度は未だ吾人に滿足を與ふるに足らざるなり(中略)斯くの如く極めて恐る可く最も忌むべき花柳病の傳播蔓延は畢竟するに公共賣淫者より來ること勿論なりと雖も就中感染の多くは密淫者にあること明かなり、例へば仙台市の如き(略)我が平町の現況に徵する密淫者の花柳病に罹り居るもの夥て同市に遜らざりき、最近行政執行法により處分せられたる酌婦六名中五名は花柳病に罹れり、之を以ても如何に彼らの社會に蔓延しつゝあるか其の一班を窺知するに足るべし。云々

○かく前提してその次に掲げた統計によると、當時の平町には

藝妓四十八人、密淫者五十一人計九十九人、石城郡合計藝妓九十二人、密淫者百八十八人、料理店二百五軒、平町人口一萬二千五百六十人に對し花柳病患者千二百八十二人とある

廢品回收國のため
あす宣傳、申合事項を決め 愈よ實行に乘り出す

國策の線に沿ふ廢品回收の運動はいまや全國的に行はれてゐる、平方部でも過般支部(支部長は本田中署長)を結成して本格的運動に乘り出したが市では愈よ各家庭に移すこととなり十七日午前九時から各種團体を招いて『廢品回收懇談會』を開きこれが宣傳方法と左記事項について協議決定の上これを市內各區に周知せしめ支部員の活動を望むことゝなつた

一、各家庭へはビラを配布し趣旨の普及に努むること

一、學校、團体は趣旨の徹底に協力のこと

一、各戶に紙屑籠の外古金物其他の廢品を容れる箱又は袋を備へること

一、委員は腕章を附し各戶に買出しに向ふことゝなつてゐるから努めて廢品は委員に賣却のこと

一、支部では隨時々價により廢品價格(最低)を決定しこの標準價格を參照賣却のこと

寺內指揮官から禮狀

菅沼平市長からの感謝激勵電報に對し寺內最高指揮官から左の禮狀が屆いた

御懇篤なる御電報を忝ふし誠に難有御禮申上候

將兵一同益々志氣旺盛御負託に背かさらんことを期し努力仕居候間今後共一層の御後援御願申上候

敬具

縣下聯合 清酒品評會撤回か
關係者時局を考慮

石城酒造組合主催の縣下聯合清酒品評會は、吟醸うまき爽涼十月の候をトし蓋け直後の市公會堂に開催すべく今春來着々計畫を進めて居たが、其後時局關係から各地に於ける各種の催しが多く計畫撤回の大勢に鑑み、差當り決行の見込立たず、目下當局と協議中で今月末開かれる縣聯合酒造組合總會に於て左右の決定を見るものと豫想される。平に於ける縣下品評會は既に昭和三年に開かれた事あり今回は二度目であるが、市郡下の醸造界は近來原料米の精選其の他當局の指導と當業者の自覺とにより諸種の改善が行はれた結果著しき進歩發達を遂げ、現に此程行はれた『呑み切り』では何れも曾てなき優秀な出來榮えを示し、現當業者三十四戶の石數一萬六千石の石城清酒は他方面優良品に伍して何等の遜色無き迄に漕ぎつけた今日、時局柄とは謂へ品評會が見合せになるとせば誠に遺憾なことゝされてゐる

湯本國婦後任會長詮衡

湯本町國防婦人會では會長矢吹文彌氏の應召による後任につき十五日評議員會を開いたが町長仲里顯太郎氏が有力である

神谷國婦 奉仕作業

神谷村國防婦人會では縄なひによつて皇軍の慰問袋を作ることゝなり十五日同村上神谷住善寺に會員五十一名參集第一回の奉仕作業を行つた

陣中を聽く
(215)

吾人の任務は未だ其の半にも達せぬ
市內舊城跡出身 西內牧造君(通信)(上)

――三月末御慰問品御送下され候由拜承鶴首様の御芳情をお待ち致して居りましたが戰線一轉して其の機を逸して居りましたが本日頂戴致し皆々様の御心盡しの程に感謝致して居ります」既に御承知の通り小生も後方勤務ながら〇〇にて唯一の機關故五月五日の節句の佳日に基地を出發懐遠、蒙城、永城、黄口を經て奉天會戰にも比すべき徐州攻擊に參加致しました故國の眞夏よりも猛暑炎熱百餘度旱天續きの爲め大軍の前進のため黄土は黄塵萬丈となり一間先も見えず、井水は渇水してなく强行軍のため糧秣等の補給充分でなく南京米の(略)一日平均八里の行程でしたが更に不平を語るものなく日によつては午前一時目的地到着路上にゴロ寢の有様にて敵の遺棄死体と相違ひしこともある程の苦しみでした。全國民の齊しく待望して居た徐州入城も私共の手により美事に成功吾々も實に鼻の高きを覺えました。他の兵隊の前誠に愉快に思ひました、滯在を歩見て入城して見ると直に敗敵の追撃戰です、そして宿縣を經て再度蒙城城に此の間二十日間百三十里を突破致しました、そして再び休養の暇もなしに南進鳳臺る兩角部隊の一番乘り、遂に壽縣正陽關を占領〇〇攻擊の準備の爲の相當期日滯在のものとすつかり準備しましたが處、二三日中〇〇へ轉進です、更に休養の暇がありません私共後方勤務は誠に危險です、殊に吾隊の如きは兵員極少、防備も殆ど絶無の狀態とて徐州行動に際しては再三命拾ひを致して居りますが之を皆様の御神護の賜と感謝致して居ります。〇〇より〇〇攻擊も吾々の任務は未だ半ばにも達せざるものと益々緊張致して居ります、平出身の馬目君(搔槌小路)玉木君(久保町)も現在小生の隊に勤務して居りますが近く(略)第一小學校の大越先生(蒙城にて)商業の藤原先生(壽縣)にお會ひ致しましたが皆非常に元氣でした

防寒毛布を送れ 前線へ――
市で獻納方慫慂

前線の防寒具毛布の獻品については既報の如く青沼市長が先づ範を垂れたが市は愈よ市民に呼びかけて獻納方を慫慂することゝなつた、次の注意事項により來月十日迄獻納手續きをとられたいと

一、受理すべき毛布は絨製又は綿製とし新古を問はずさるも使用し得る程度のものとす但し絨製品には廢品をも含む

一、獻納品には毛布の一隅に概ね長さ五寸巾三寸の片布を附し獻納者の住所氏名、獻納月日を標示し市役所に寄託せられたし

一、獻納締切は九月十日

一、獻納者に對する受領證は受理部隊國防獻品物品會計官吏より發行

青年團水害義金醵出

平青年團では目下全國的に行はれてゐる水害地義捐金募集のため市內各團に通牒取纏めてゐるが地方も過般同様の水禍を蒙つた關係もありこれを考慮に入れて各團一圓の割で十八日迄纏めることゝなつた

淋しい流燈會

戰時下、鎌田の流燈會は昨夜川風涼しい七時から小舟に乘じた僧侶により戰歿勇士の供養、川施餓鬼を執行、この間約五十個の小燈籠によつて名ばかりのさゝやかな流燈會を濟ませたが見物人もたゞ附近民だけ、ぽつりぽつりと暗い川面を行く小燈籠の明滅にほのかな秋の感傷がわいた

けふ蠅取り日

市內いはき新聞社主催の蠅取りは今、明兩日執行、第一日正午迄に捕獲數十萬突破、最高數萬といふのもあつた

四倉繭市開く

四倉乾繭組合では今十六日から初秋繭の取引開始

寄附

市內二丁目海産物商北海屋主人皆川新一氏は刑事後援會平支部へ金五圓を寄附

赤井村日曹礦業所では平市公會堂へ椅子五百脚を寄附

〇〇〇〇〇〇

日水地藏尊大祭

日水小名濱冷凍工場內鎮座大漁地藏尊の大祭を十九日執行、皇軍勇士の武運海上安全の祈願祭を行ふ

入用
一、少年少女 工場員
小學卒業程度市內居住のもの、來談あれ
磐城新聞社

十七日 (小名濱測候所發表)
滿潮 前六、二五 後七、四五
干潮 前一、〇五 後一、一〇

新 水曜 八月十七日
舊 七月二十二日 辛己 佛滅 收 參宿

△一白 運氣上向き來る日なるたもつてこりよなく進め△二黑 のぼるべききざはしに足を掛け居りても進まれぬ日△三碧 運氣動もすれば逆轉せんとす商事もつとも注意△四綠 細事を愼重にし大事を破る事あり萬事注意△五黃 報ひは少くとも勞苦を厭はず自ら勵むべし△六白 約そくを結ぶときはのちに至り災禍を生じ易し△七赤 念には念を入れ細かき事より處理し行くべし△八白 人に求むる事は多く行違ひとなる文書注意△九紫 小より大に近より遠に達する心掛けが肝心

吉田眼科醫院
醫學士 吉田久雄
平市紺屋町 電話六八番

殘暑御伺ひ
山田文一商店
電話二六二番

大日本電力(株)營業所

平運輸株式會社
常務取締役 森本盛一

平看護婦會長
清野きよ

荊妻マス儀永々病氣療養中ノ處藥石其ノ効ナク一昨十六日午前九時五十分遂ニ死去仕リ候間辱知各位ニ謹告仕候
追而葬儀ハ八月十七日午後二時出棺鎌田弘源寺ニ於テ執行可致候
昭和十三年八月十六日
草野七五三之助
男 多喜夫
同 昇二郎
親戚總代 草野友七
濱島正躬
友人總代 森本盛一
伊藤淺之助
栗原欣次郎

亡父國三郎儀葬送の際は遠路の處御會葬被成下且つ御鄭重なる御香奠を賜はり御厚志の段有難く奉深謝候拜趨御禮可申述の處乍略儀以紙上御禮申上候 敬具
昭和十三年八月十六日
福島縣平市南町
男 酒井保
外親戚一同